

# 市町村における健康推進員の役割認識と 活動内容に関する検討

高橋香子、斎藤美華、安斎由貴子、湯澤布矢子  
千葉美智子<sup>1)</sup>、菅原順子<sup>1)</sup>、高平泰正<sup>2)</sup>、大友あい子<sup>2)</sup>

宮城大学看護学部

## キーワード

推進員、役割認識、活動内容

healthy promotion member, role recognition, content of activity

## 要 旨

本研究の目的は、市町村における地区組織の一つである健康推進員が、推進員としての役割の重要性をどの程度認識しているかということと実際の推進員活動の内容について明らかにすることである。仙台市近郊2町の推進員を対象に調査した結果、推進員としての役割認識や活動に対する自己評価は高い傾向を示した。また、今後、行政が支援していく上での課題として、推進員相互のネットワーク形成や、地区の意見や要望を行政に提言できるシステムづくりの必要性などの示唆が得られた。

A Study of Role Recognition of Healthy Promotion Member in Cities, Towns, and  
Villages and Examinations Concerning Content of Activity

Kouko Takahashi, Mika Saito, Yukiko Anzai, Fujiko Yuzawa  
Michiko Chiba<sup>1)</sup>, Junko Sugawara<sup>1)</sup>, Yasumasa Takahira<sup>2)</sup>, Aiko Otomo<sup>2)</sup>

Miyagi University School of Nursing

## Abstract

The purpose of this study is to clarify the recognition of the healthy promotion member in cities, towns, and villages to the importance of their role and the main content of their activity. We investigated for the promotion member in two towns in the Sendai City outskirts. The results of a self-evaluation indicated a high tendency toward the importance of role recognition and the activities of the health promotion official. Moreover, the results suggested the necessity of developing a network the mutual exchange of information between health promotion officials and a system for the distribution of district health information.

---

1) 宮城県富谷町保健福祉課 Tomiya Town Office Section of Health and Welfare  
2) 宮城県大和町保健福祉課 Taiwa Town Office Section of Health and Welfare

## 1. はじめに

市町村における健康推進員（以下「推進員」とする）の活動は、市町村長の依頼を受けて行われる活動である。当初の推進員活動は、母子保健分野を中心として実施されてきたが、昭和58年の老人保健法の施行以降は、居住区を単位として母子保健のみならず成人・老人の保健活動にまで活動範囲を広げている<sup>1)2)</sup>。市町村にとっては、地域における健康づくりを推進する上での協力者として、その期待も大きい。その反面、市町村長の依頼を受けて行う活動であることから、ややもすると「頼まれ仕事」的な行政主導の活動になりやすい<sup>3)</sup>。しかし、行政が行っている保健福祉事業やその他の健康づくり活動を地域住民に浸透させ、地域住民の主体的な健康行動を促す上で、住民の中から選ばれた推進員の役割はとても重要であると思われる。

そこで、本研究では、市町村における地区組織活動の効果的な育成・支援の検討に資するよう、仙台市近郊にある2町の推進員の主な活動内容と推進員の役割の重要性をどの程度認識しているかについて調査、検討した。

## 2. 研究方法

### 1) 調査対象

仙台市近郊のA町（人口35,381人 平成11年10月1日）およびB町（人口24,137人 平成11年10月1日）の推進員全員103名を対象とした（A町42名、B町61名）。

### 2) 調査内容

調査内容は、年齢、性別、現在の健康状態及び自覚症状、主観的健康度、日常生活における健康への配慮、推進員になった契機、活動経験、推進員としての役割認識、最近1年間の主な活動内容、活動上の困難点、活動についての自己評価とした。

### 3) 調査方法

留置による自記式アンケート調査とし、郵送にて回収した。調査期間は、平成13年2月27日～3月9日であった。

### 4) 分析方法

数量的データは、SPSS 10.0J for Windowsを

用いて処理し、分析には $\chi^2$ 検定を用いた。

## 3. 結果

アンケートの回収率は86.4%で、有効回答者数は89名であった。

### 1) 対象の属性および生活背景

A、B両町とも推進員はすべて女性であり、平均年齢は、 $54.6 \pm 8.8$ 歳であった。50・60歳代が66名で全体の74.1%を占めていた。現在の健康状態では、55名（61.8%）が自覚症状ありと回答していた。その主な内容は、肩こり（29名32.6%）や腰痛（28名31.5%）などであった。自分の健康について、「非常にあるいはまあまあ健康な方である」と肯定的に捉えている者は85.4%を占めていた。日頃、食生活や運動習慣等について、自分や家族の健康に配慮している者は72名（80.9%）であった。自分や家族の健康に日頃配慮している人は、「推進員の役割について理解できた（ $p=0.02$ ）」、「町の保健事業や健康づくりについて理解できた（ $p=0.01$ ）」、「活動する際に区長の協力が得られている（ $p=0.00$ ）」と認識している人が有意に多かった（表1）。

### 2) 推進員になった契機・活動経験

推進員は、町の依頼を受けた各地区の区長の推薦により任命される。区長の推薦を受けたきっかけは、「区長さんに頼まれて」が56名（62.9%）と大半を占めており、「自分からすすんで」は3名（3.4%）に過ぎなかった。推進員としての活動経験は、「今回が初めて」と「2期以上経験」が半数ずつを占めていた。

### 3) 活動に対する家族、区長、地区住民の協力に関する認識

家族の理解・協力については81名（91.0%）、区長の協力については70名（78.7%）、地区住民の協力については66名（74.2%）が「得られている」と回答していた。

### 4) 推進員としての役割認識と最近1年間の活動状況（図1）

推進員として町から期待されている役割の重要性について、どの程度認識しているか調査した結果、「1. 自分や家族の健康づくりを実践する」「2. 町の保健事業について住民にPRする」

表1 健康への意識および配慮の有無との比較

項目		健康への意識・配慮の有無		P 値
		配慮なし	配慮あり	
推進員の役割についての行政の説明 (n=87)	よく理解できた まあまあ理解できた どちらともいえない あまり理解できなかった まったく理解できなかった	1(6.3) 14(87.5) 1(6.3)	20(28.2) 51(71.8)	0.02
保健事業や健康づくり等についての行政の説明 (n=88)	よく理解できた まあまあ理解できた どちらともいえない あまり理解できなかった まったく理解できなかった	1(6.3) 13(81.3) 2(12.5)	24(33.3) 47(65.3) 1(1.4)	0.01
区長の協力 (n=86)	得られる まあまあ得られる どちらともいえない あまり得られない 得られない	4(25.0) 4(25.0) 2(12.5) 3(18.8) 3(18.8)	45(64.3) 16(22.9) 3(4.3) 5(7.1) 1(1.4)	0.00

χ<sup>2</sup>検定  
人数(%)

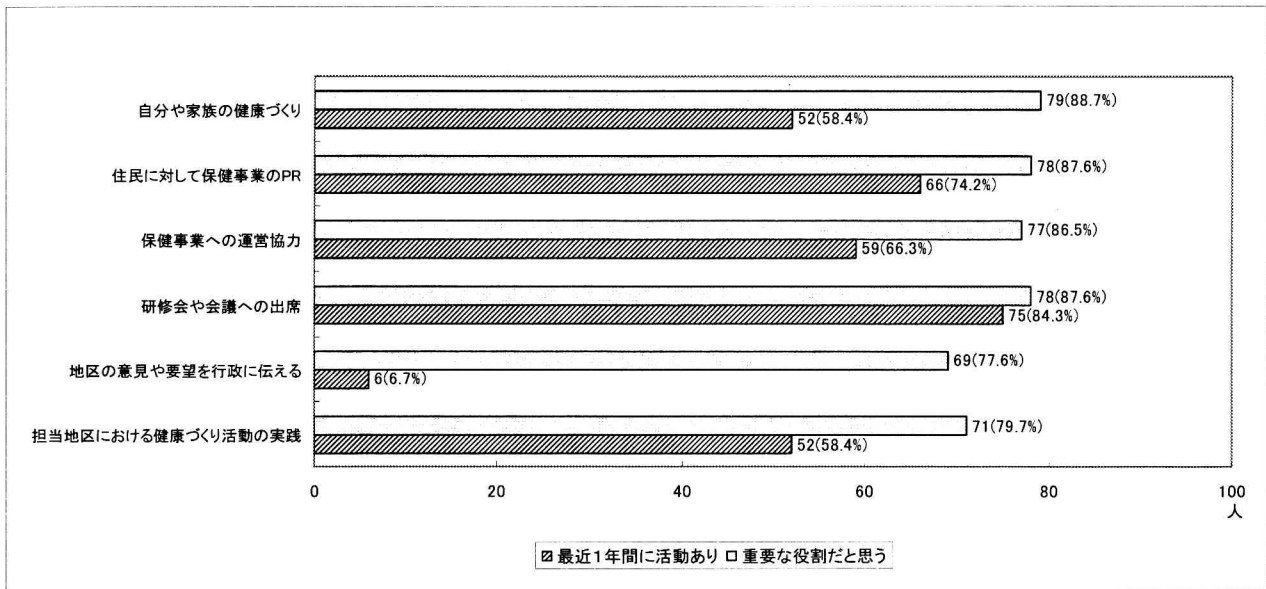


図1 推進員としての役割認識と最近1年間の活動状況 (複数回答)

「3. 町の保健事業の運営に協力する」「4. 研修会や会議に出席する」については、8割以上が「重要な役割だと思う」と回答していた。また、「5. 健康づくりに関する地区の意見や要望を行政に伝える」「6. 地区に必要な健康づくり活動を考え、実行する」という役割についても、75%以上の推進員が重要であると認識していた。

最近1年間の活動で一番多かった内容は「研

修会や会議への参加」75名(84.3%)であった。次いで、「町の保健事業について住民へのPR」66名(74.2%)、「町の保健事業への運営協力」59名(66.3%)であった。逆に、一番少なかった内容は「健康づくりに関する地区の意見や要望を行政に伝える」という役割に関する活動であった。この役割については77.6%が重要であると認識しているにもかかわらず、実際に何らか

の活動をしたと回答した者は6名(6.7%)であった。

推進員として活動中に「困った」経験のある者は32名(36.0%)であり、そのうち13名(40.6%)は、「町の保健婦・栄養士」、「推進員の仲間」を相談相手としていた。

困り事の具体的内容は、どのような活動をすすめればよいか、地区住民の関心を高めるためにはどうすればよいかなどの「具体的な地区活動の方法がわからない」13名、「住民からの相談内容に対する戸惑い」2名、地区活動の際に人がなかなか集まらない、訪問すると嫌な顔をされるなど「地区住民の理解・協力が得にくい」が19名であった。その他としては、「表札がなく、番地がわからない」、「仕事の都合でなかなか研修会に参加できない」などであった(表2)。

5) これまでの活動に対する自己評価

これまでの推進員活動に対して「よかった」と自己評価した人は79名(88.8%)、「どちらともいえない」「あまりよくなかった」と評価した人は8名(9.0%)であった。肯定的な評価の理由は、「健康に関する知識を深め、自分や家族、住民の健康に配慮するようになった」(44名)、「推進員相互の理解・協力が深まった」(17名)、「いろいろな人と交流することができた」(17名)、「主体的に活動し、成果が得られた」(6名)、「町の活動について理解できた」(2名)であった。否定的な評価の理由は、「地区住民の協力が得られない」(3名)、「思うように活動できなかった」、「他のメンバーとの関係がうまくいかない」、「自分の時間が少なくなる」(各1名)であった(表3)。

表2 推進員活動をしていて困ったこと(複数回答)(n=32)

項目	具体的内容
*具体的な地区活動の方法がわからない(13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の望んでいることがつかめない(1)</li> <li>・健康に関する企画を何にするか迷う(2)</li> <li>・どのようにして地域の人々に、健康についてPRできるか?(1)</li> <li>・どうしたら住民に保健事業や地区健康教室等に参加してもらえるのかわからない(9)</li> <li>・推進員になった当初は、何をすればよいのかわからなかった(1)</li> <li>・人前で話すこと(1)</li> <li>・移動手段のない住民を会場までどうやって連れて行くか(1)</li> </ul>
*住民からの相談に対する戸惑い(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の高齢者の方に話し相手になってほしいといわれる(1)</li> <li>・民生委員と間違えられて、「妻を早く老人ホームに入居させてほしい」と言われた(1)</li> </ul>
*地区住民の理解・協力が得にくい(19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の人達から推進員に対しての理解があまり得られない(2)</li> <li>・集合住宅等巡回時になかなかドアを開いてもらえない時がある(2)</li> <li>・地区健康教室の参加を求めても「そこまではね…」と言われる(1)</li> <li>・家庭訪問し、話をしたら嫌な顔をされた(1)</li> <li>・保健事業や地区の行事の際、なかなか地区の人々に参加してもらえない(7)</li> <li>・回覧しても無関心の人がほとんどでお願いして歩くこと(2)</li> <li>・回覧では集まってくれないので、もう一度電話でお願いすること(1)</li> <li>・若い人達は仕事で日中いないし、興味がない(1)</li> <li>・何年も継続していると、当初の町内会の約束事(町内会の役員会等には出席しなくてもよい)が守られず、新役員などから誤解を受けた(1)</li> </ul>
*その他(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表札がないこと、番地がわからないこと(1)</li> <li>・2期目ということで、1期目の推進員や他地区の推進員から頼りにされ、それに応えられなかったことに悩んだ(1)</li> <li>・定例会が月末にあるが、仕事を持っているので、いつも参加できないこと(2)</li> <li>・世帯数が多いため回覧がスムーズでなく、コピーしてまわすこともたびたびあった。期間が少なく回覧がまわらない(1)</li> <li>・自分は健康ではないのに推進員になってしまい、積極的に行事に参加できなかった。急に都合がつかなくなることもあり重荷だった(1)</li> <li>・交代したいと思ってなかなか退任できず困った(1)</li> </ul>
*不明(1)	

( )内:人数

表3 「これまでの推進員活動を振り返って」の理由 (複数回答) (n=87)

これまでの推進員活動を振り返って	項目	具体的内容
1. よかった (n=58)	*主体的に活動し、成果が得られた(5)	・総合健診で疾患の早期発見につながった人から感謝された(1) ・地区の情報を町に報告すると、それなりの対応をしてくれる(1) ・地区の人々の顔が見えるようになり、会話の中から生活状況や健康状態がよくわかるようになった(1) ・住民に顔を覚えてもらい、どこでも信頼され相談された(1) ・楽しく参加できた(1)
	*いろいろな人と交流することができた(9)	・地区住民と交流を図ることができた(9) ・視察研修等で他町や他県の推進員とも交流できた(5)
	*推進員相互の理解・協力が深まった(17)	・推進員同士の親睦を深めることができた(11) ・自分自身の友達・仲間が増えた(6) ・年齢問わず一つの輪になりなんでも話し合えた(1)
	*健康に関する知識を深め、自分や家族、住民の健康に配慮するようになった(36)	・自分の健康に対する関心が高まった(6) ・活動や研修会を通して、自分自身の勉強になった(20) ・自分や家族が元気でいられた(5) ・生活習慣病予防の知識が豊かになった(1) ・高齢者のケアについて学んだ(介護用品、寝たきり者への接し方)(3) ・食事や健康について学んだ(3) ・医師などの専門家の講演を聞くことができた(2)
	*町の活動について理解できた(2)	・保健事業の内容が理解できた(2) ・町の担当者や職員の方と話し合えた(1)
	*その他(2)	・自分のためにとってもよかった(2)
	*不明(6)	
2. まあまあよかった (n=21)	*主体的に活動し、成果が得られた(1)	・自分が提案して高脂血症の予防教室を開き、その病態や予防について地域の人に学んでもらうことができた(1)
	*いろいろな人と交流できた(8)	・地区住民と交流を図ることができた(4) ・推進員同士の親睦を深めることができた(5) ・視察研修等で他町や他県の推進員とも交流できた(3)
	*健康に関する知識を深め、自分や家族、住民の健康に配慮するようになった(8)	・活動や研修会を通して、自分自身の勉強になった(6) ・幼児健診等に参加し、最近の母親の考えを学んだ(1) ・家族が元気でいられた(1) ・今後の健康管理に役立った(1)
	*思うように活動できなかった(2)	・仕事のため、研修会や会議に出席できなかった(1) ・地区ごとに分かれて活動するのが残念だ(1)
	*地区住民の協力が得られない(1)	・町内の方達への呼びかけが難しい。関心の無さに驚く(1)
	*不明(3)	
3. どちらともいえない (n=4)	*思うように活動できなかった(1)	・研修会などにあまり参加できなかったのが残念だった(1)
	*地区住民の協力が得られない(1)	・集合住宅に住む人の協力が得られない。ドアを開けてもくれないので嫌な気持ちになる(1)
	*他のメンバーとの関係がうまくいかない(1)	・他の推進員の中に溶け込んでいけなかった(1)
	*不明(1)	
4. あまりよくなかった (n=4)	*自分の時間が少なくなる(1)	
	*地区住民の協力が得られない(2)	・地区で健康教室を開いても、出席する人があまりいない(1) ・回覧をまわしても、ほとんどの人が無関心で読んでいないようだ(1)
	*不明(1)	
無回答 (n=2)	・あまり活動していないので評価できない(1)	
	・不明(1)	

( )内:人数

#### 4. 考 察

回答者の中で推進員経験が「今回初めて」という人は約半数を占めていた。また、推進員になったきっかけは、「区長に頼まれて」という人が62.9%、「自らすすんで」という人は3.4%に過ぎない結果であった。これは、推進員活動が当初は半ば頼まれ仕事の的に始まっているという実態を示唆するものと考えられた。

推進員は、50～60歳代の年代を中心とした女性で構成され、その過半数は、健康状態において何らかの自覚症状を有していた。自らも健康問題を抱えつつ推進員として活動している状況にあると考えられた。

これまでの推進員活動に対する自己評価では、「よかった」と感じている人が8割以上を占めており、その評価理由では「健康に関する知識を深め、自分や家族、住民の健康に配慮するようになった」が最も多かった。一方、自分や家族の健康への配慮は、推進員の役割や保健事業・健康づくりについての行政説明に対する理解度、区長の協力に関する認識と相互に関連していることが明らかになった。以上のことから、地区住民のための推進員活動が推進員自身の健康づくりにもつながり、肯定的な自己評価に結びついたのでないかと考えられた。

推進員活動に対する家族や区長、地区住民の理解と協力については、多くが「得られている」と回答していた。実際の協力状況は本調査からは判断できないが、活動中に「困った」体験をした推進員は36%であり、「地域住民の理解・協力が得にくい」という内容が多かった。宮坂ら<sup>3)</sup>が「地区組織活動の本質はコミュニティにおける問題解決、住民参加、住民同士の協力、社会資源の利用、組織間の関係の調整」と述べているように、今後は、推進員本人だけでなく、家族や区長、地区住民が推進員の役割について理解を深め、相互に協力し合えるような地域づくりについて検討する必要があると思われた。

推進員の個々の役割について、特に重要な役割と感じているのは、「自分や家族の健康づくり」であり、実際の活動では「研修会や会議への参加」が多い傾向を示した。このことは、まずは健康に

対する自分自身の知識を深め、自分や家族など身近で実践可能な範囲から健康行動を起こそうとしている実態を示唆するものと考えられた。

また、実際の活動で「研修会や会議への参加」に次いで多いのは、「保健事業のPR」、「町の保健事業の運営協力」であった。「地区に必要な健康づくり活動を考え、実行する」という活動も半数以上が実施しており、推進員として地区の健康課題は何かを考え、活動するという主体的な取り組みが行われていることが推察された。

一方、「健康づくりに関する地区の意見や要望を行政に伝える」という役割については、その重要性を十分認識しながらも、なかなか活動に結びついていない状況であることが示唆された。活動中の困ったことでは「具体的な地区活動の方法がわからない」という内容もあげられており、推進員としての役割を十分に果たしてもらうためには、活動方法や手順を具体的に提示するなどの関わりがさらに必要と思われた。井伊<sup>4)</sup>は「地域の潜在した問題を顕在化させるような、また必要なケアをその地域に生み出すための発信源としての役割を地区組織に期待する」と述べているが、推進員が活動を通して把握した地区の意見や要望を行政に提言できるようなシステムづくりについて検討する必要があると思われた。

#### 5. 研究の限界と今後の課題

各市町村によって推進員の任期満了時期が異なることから、今回は任期満了時期が同一で仙台市近郊にある2町103人を対象として調査を実施した。推進員活動の意義や支援のあり方をより明確にするためには、今後、調査対象数を増やして検討するとともに、推進員活動に対する住民側の認識、都市部と農村部における活動の比較、ボランティア活動など他の地区組織活動との関連等について検討の必要があると思われた。さらに、地域の健康づくりをすすめる上で推進員相互のネットワークをどのように機能させていくか、また、ともに地域住民の健康を支援するという立場から、市町村の保健婦・栄養士と推進員との連携・協働のあり方等について研究をすすめる必要があると思われた。

## 6. 結 論

仙台市近郊2町の推進員は、推進員として行政から期待されている役割について「重要である」と認識している人が多かった。しかし、実際の活動では「研修会や会議への参加」「保健事業のPR」「保健事業の運営協力」は実施されていたが、「地区の意見や要望を行政に伝える」という役割については、実際の活動にあまり結びついていないという実態が明らかとなった。

## 謝 辞

本調査にご協力いただきました富谷町の健康推進員、大和町の保健推進員の皆様に心より感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 平山朝子他：公衆衛生看護学総論. 日本看護協会出版会, 1993.
- 2) 藤本末美：地区組織活動の歴史・概念・分類, 保健婦雑誌, 57(7) ; 522-526, 2001.
- 3) 宮坂忠夫他：保健学講座12健康教育論. メヂカルフレンド社, 1999.
- 4) 井伊久美子：地区組織への支援と組織化のための方法論—個々の組織への支援といくつかの組織を横断的にまとめる際の支援, 保健婦雑誌, 57(7) ; 528-532, 2001.